『もりおかの短歌』

秋の部　優秀賞十首

この秋も鰭破れたる鮭いくつ

盛岡市　石川　修子

与の字橋にて魚影に見入る

盛岡市　石川　修子

欄干に身を乗り出して「来た来た」と街川指さし鮭をむかえる

盛岡市　堀米　公子

句読点感嘆符などつきている『悲しき玩具』の行間の白

京都府長岡京市　吉田　正美

盛岡(もりおか)の街(まち)を歩(ある)けば
啄木(たくぼく)とすれ違(ちが)いそう
まっすぐ進(すす)む

秋田県湯沢市　佐井　良子

啄木(たくぼく)と節子(せつこ)の愛(あい)の切(せつ)なさに
想(おも)ひを馳(は)せる
いい夫婦(ふうふ)の日(ひ)

青森県青森市　鈴木　操

晩秋(ばんしゅう)に
松(まつ)の実(み)かじり冬仕度(ふゆじたく)
リスも忙(いそが)し運動公園(うんどうこうえん)

盛岡市　赤坂　昌信

頂(いただ)きを雲(くも)に覆(おほ)はるる岩手山(いわてさん)
心(こころ)に残(のこ)して
旭橋去(あさひばしさ)る

千葉県市川市　長田　強子

山裾(やますそ)の
オオヤマザクラ紅葉(こうよう)し
日戸(ひのと)の里(さと)の秋(あき)は深(ふか)まる

盛岡市　小林　貴史

御所湖畔(ごしょこはん)
黄花(きばな)コスモス咲(さ)く頃(ころ)に
つなぎの温湯(ぬるゆ)に妻(つま)と浸(つ)かりぬ

盛岡市　小林　貴史

チャグチャグと馬(うま)コが渡(わた)る中津川(なかつがわ)
背(せ)に乗(の)る吾子(あこ)に
初夏(しょか)の風(かぜ)ふく

岩手県矢巾町　小野寺　一洋

秋の部〈ジュニア部門〉　優秀賞三首

盛岡(もりおか)が
生(う)んだ天才(てんさい)　たくぼくの
気持(きも)ちになって
芝(しば)にねそべる

盛岡市　村上　諒

盛岡(もりおか)は
山(やま)に囲(かこ)まれ　川多(かわおお)し
ロマンあふれる　我(わ)が故郷(ふるさと)よ

盛岡市　川村　樺音

啄木(たくぼく)の新婚(しんこん)の家(いえ)で読(よ)みふける
「岩手日報(いわてにっぽう)」
歴史(れきし)を感(かん)じ

盛岡市　相馬　美織

【講評】

暑からず寒からずの好季節「秋の部」の応募総数は１７８通でした。そのうち６８通はジュニアの皆さんは自主研修という学習の一環として、または「盛岡通の旅」というテーマのもと、グループごとに興味のある場所や施設などマップを頼りに巡った様子が伝わります。一般の部では鮭の遡上や岩手山、あるいは啄木の歌集など、素材に幅があり心に響く作品に多く出逢うことができました。

平成三十年十二月選　秋の部

投稿数　百七十八首

選者　松田　久恵

『もりおかの短歌』秋の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

方形(ほうけい)の的射抜(まといぬ)かれて真二(まっぷた)つ
馬(うま)は疾駆(しっく)すよ
八幡宮(はちまんぐう)の馬場(ばば)

盛岡市　石川　修子

君(きみ)が住(す)む不来方(こずかた)のさと
秋(あき)めいて剥(む)きたての柿(かき)
軒(のき)を色(いろ)どる

盛岡市　赤坂　昌信

内丸(うちまる)のそぞろ歩(ある)きのつれづれに
栃(とち)の実(み)落(お)ちて
秋(あき)を奏(かな)でる

盛岡市　中島　久光

風流山車（ふうりゅうだし）
口上空に冴（こうじょうそらさ）えわたり
太鼓囃子（たいこばやし）が突如（とつじょな）鳴り出す（だ）

盛岡市　小林　貴史

啄木（たくぼく）の好きな食（す）べ物（もの）
蕎麦南瓜（そばかぼちゃ）

盛岡市　西川　政勝

虫（むし）の音聞（ねき）いて今宵味（こよいあじわ）う

ヤーレヤレの
掛（か）け声響（ごえひび）く秋祭（あきまつ）り
山車（だし）と擬宝珠（ぎぼし）の似合（にあ）う盛岡（もりおか）

盛岡市　河野　康夫

階（きざはし）を昇（のぼ）り
座敷（ざしき）に待ちをれば
和（わ）の出汁（だし）かほるわんこ蕎麦店（そばてん）

盛岡市　工藤　由美子

中津川さざ波の中鮭還る（なかつがわ　なみ　なかさけかえ）
もりおか懐（なつ）かし
ふるさと恋（こい）し

青森県弘前市　木村　千尋

盛岡（もりおか）のお城（しろ）の堀（ほり）に
ぽっちゃんと
栃（とち）の実（み）落（お）ちて秋（あき）の深（ふか）まる

盛岡市　鈴木　充

啄木（たくぼく）に肖（あやか）り感性研（かんせいと）ぎ澄（す）まし
落（お）ち葉（ば）踏（ふ）み締（し）む
盛岡城跡（もりおかじょうあと）

青森県青森市　鈴木　操

秋の部〈ジュニア部門〉　優秀賞

該当なし

【講評】

一般部門

秋の部を担当するのは初めてですが、心のこもった作品が多く寄せられ嬉しく思います。岩手や盛岡、そして啄木に対する思いの深さがどの歌にも表れており感心いたしました。中には、もう少し推敲すれば、もっと良くなる歌が多くありましたので、投稿する前に推敲することを心がけて欲しいと思います。

令和元年十二月選　秋の部

投稿数　百十二首

選者　山本　豊

『もりおかの短歌』秋の部

一般部門　優秀賞十首

千年（せんねん）の
厂史（れきし）をこえて陸奥（みちのく）の
蝦夷守（えみしまも）りし伊治砦麻呂（いじのあざまろ）

神奈川県横浜市　伊治　哲

疫病（えきびょう）に中止（ちゅうし）となるも
八幡（はちまん）の祭囃子（まつりばやし）の
聞（き）こえる夕（ゆう）べ

秋田県大仙市　鈴木　仁

盛岡（もりおか）の市役所（しやくしょまえ）前の
ナナカマド赤（あか）い実（み）生（な）りて
秋（あき）の風（かぜ）吹く

盛岡市　鈴木　充

技（ぎ）と究（きゅう）の
こころ寄（よ）せ合（あ）ふ裂（さ）き織（お）りの
ブランド輝（ひか）るロマン県（けん）都（と）に

釜石市　中嶋　多喜子

岩手山（いわてさん）
山（やま）の紅葉（こうよう）ながめつつ
古希（こき）の祝（いわ）いのフルムーン旅（たび）

千葉県浦安市　金井　厚子

幼（おさな）より貧（まず）しき中（なか）で
啄木（たくぼく）の歌（うた）を暗誦（あんじゅ）し
喜寿超（きじゅこ）えしわれ

青森県青森市　鈴木　操

もりおかに見（み）える山並優（やまなみやさ）しくて
語（かた）りくるやう
夕日（ゆうひ）を受（う）けて

千葉県山武郡　齋藤　博

コロナ禍（か）に
もりおかの城（しろ）訪（おとず）れて
心静（こころしずか）な秋（あき）の長雨（ながあめ）

茨城県守谷市　飯塚　忠

朝焼（あさや）けの神子田朝市（みこだあさいち）
吐く息（いき）の白（しろ）さに人（ひと）の
あたたかさあり

富山県富山市　早川　晃央

遠里（とおざと）や
夜（よる）の静寂（しじま）によみがえる
さんさ踊（おど）りの白（しろ）き桴（ばち）の手（て）

宮城県多賀城市　小松　隆夫

秋の部〈ジュニア部門〉　優秀賞

該当なし

【講評】

一般部門

今回の優秀賞には他県の方が多かった。九十三歳の方がいたことも嬉しかった。盛岡は啄木のイメージを持っている方が多いと実感したが、啄木に拘らず新しい盛岡を発見して欲しい。素材を大切にして歌を詠みましょう。

令和二年十二月選　秋の部

投稿数　八十八　首

選者　赤澤　篤司

『もりおかの短歌』秋の部

〈一般部門〉優秀賞十首

逝(ゆ)きし友
包(つつ)み込(こ)むまち盛岡(もりおか)の
こころ優(やさ)しきふるさとの人(ひと)

盛岡市　赤坂　昌信

辛(つら)い時(とき)いつも仰(あお)ぐは岩手山(いわてさん)
強(つよ)く生(い)きよと
鼓舞(こぶ)してくれぬ

盛岡市　小林　貴史

六十年前(ろくじゅうねんまえ)
開運橋(かいうんばし)のたもとにて
水(みず)あそびする母(はは)とわれ

宮城県仙台市　角舘　俊一

あちこちに君の面影(きみおもかげ)みるような
不来方(こずかた)の秋(あき)
君(きみ)なき休日(きゅうじつ)

東京都練馬区　鳥嶋　翔陽

ききおよぶ
大(おお)つなみの後(あと)　海原(うなばら)も
今(いま)は静(しず)けき　宮古(みやこ)の海(うみ)よ

神奈川県南足柄市　加藤　享子

大津波(おおつなみ)
鮭(しゃけ)の稚魚(ちぎょ)をも攫(さら)ひしか
遡上(そじょう)の見(み)えぬ中津川(なかつがわ)なる

盛岡市　餘目　忠吉

やまめ住(す)む岩手(いわて)の川(かわ)を黒(くろ)くする
腹(はら)ビレ光(ひか)り
急沢登(きゅうざわのぼ)る

盛岡市　田村　勝男

宵の写メ
三十日（みそか）提灯娘に送る
静けく返すもりおかの月

釜石市　中嶋　多喜子

新妻（にいづま）と過ごせし家（いえ）よ赤錆（あかさ）びる
トタンも秋陽（あきび）の
日（ひ）だまりと照（て）る

福岡県太宰府市　仁田原　秀明

啄木（たくぼく）が愛（め）でたる虫（むし）の子孫（しそん）かも
好摩（こうま）の駅（えき）で
蟋蟀（こおろぎ）を聞（き）く

盛岡市　中島　久光

秋の部〈ジュニア部門〉　優秀賞

該当なし

【講評】

一般部門

ふるさとに皆何を求めるのでしょうか?優しい母との想い出、鼓舞してくれる父、気の置けない友人…、もういないのかもしれません。でもそこに行けば、鮮やかな記憶とともに、大切な人にもう一度逢える—そう思わせてくれる場所を私たちは「ふるさと」と言っているのでしょう。

令和三年十二月選　秋の部

投稿数　百二十三　首

選者　山本　玲子

『もりおかの短歌』秋の部

〈一般部門〉　優秀賞十首

伝統（でんとう）のチャグチャグ馬コ（うま）
フランスで鈴（すず）の音鳴（ね）らし
シャンゼリゼをゆく

盛岡市　小林貴史

枯（か）れ葉埋（はうず）む高洞山（たかほらやま）の登山路（とざんろ）に
ぬた場現（ばあらわ）れ
鹿（しか）の気配（けはい）す

盛岡市　岩舘公子

不来方（こずかた）の
城（しろ）の栃（とち）の実（み）を薬酒（やくしゅ）とす
秋（あき）の喜（よろこ）び秋（あき）の愉（たの）しみ

盛岡市　林浩子

城跡に銀杏の黄葉（しろあと　いちょう　もみじ）
散りしとき歌碑に触りて（ち　かひ　さわ）
軽く音立つ（かる　おとた）

奥州市　遠藤カオル

啄木になりしつもりで（たくぼく）
空仰ぎ天才の雲と（そらあお　てんさい　くも）
語らうは楽し（かた　たの）

盛岡市　小林貴史

啄木の小径に（たくぼく　こみち）
突如カモシカが（とつじょ）
姿見せけり秋の岩山（すがたみ　あき　いわやま）

盛岡市　鈴木充

わんこそば姉さんの声でもう一杯（ねえ　こえ　いっぱい）
木札にぎりしめ（きふだ）
おなかかかえる

東京都荒川区　川真田ゆう

北上川の一筆箋に
よみがえる　逆波立ちし
若き日の恋

千葉県四街道市　宮野俊洋

清流を鮭がのぼりくる中津川
歴史をきざむ
三橋のあり

盛岡市　照井時彦

北上の水面きらめき
甦る
若き日の君歌を詠む声

東京都練馬区　土肥千代子

『もりおかの短歌』秋の部

〈ジュニア部門〉　優秀賞

（応募時、中学生以下に限る）

該当なし

【講評】
一般部門・ジュニア部門

好季節の秋ですが、今年はコロナウイルスの流行で多くの人々が旅行や不要不急の外出を控えた印象を強くいだきました。それでも「秋の部」の応募総数は１１１通に達しました。チャグチャグ馬コがパリのシャンゼリゼ通りのパレードに参加し、日本の馬っこ文化の凱旋としてニュースになったことも、花を添えてくれたことと嬉しく思います。

令和四年十二月選　秋の部
投稿数　百十一首
選者　松田　久恵

『もりおかの短歌』秋の部

〈一般部門〉　優秀賞十首

サラサラと落つる落ち葉に
啄木の声が聴こえた

盛岡市　河野　康夫

望郷の丘
光さす
南昌荘の床もみじ
遊びいる子の歌を映して

秋田県大仙市　鈴木　仁

渋民の地より仰ぎし岩手山
かくありたきと
願ひて生くる

青森県青森市　鈴木　操

もりおかの
秋の祭の太鼓の音
岩山にまで微かに届く

盛岡市　鈴木　充

城あとの草生に
少年啄木とわれとが見上ぐる
盛岡の空

神奈川県川崎市　須永　由紀子

郷土食とふじゃじゃ麺を食さむと
城近き店の
行列に並む

奈良県奈良市　永井　初子

不来方の城を訪ひきて
歌碑に会ふ
十五の心に青空仰ぐ

奈良県奈良市　永井　初子

もりおかで
行き交ひし人のぬくもりに
いにしへよりの心身にしむ

鳥取県西伯郡　永見　邦子

啄木の故郷行けば
思い出の山高くして
稲穂波打つ

盛岡市　西川　政勝

啄木のゆかりの街を
歩みゆき旅のをはりに
鉄瓶を買ふ

奈良県奈良市　和田　康

『もりおかの短歌』秋の部

〈ジュニア部門〉　優秀賞

（応募時、中学生以下に限る）

葉(は)が落(お)ちて秋(あき)の夕日(ゆうひ)に
そびえ立(た)つ紅(あか)に染(そ)まった
盛岡城(もりおかじょう)あと

盛岡市　菅原　優理（十一歳）

【講評】

ジュニアの部に8首、一般の部に99首の応募がありましたが、短歌でなく俳句であったり、短歌の基本を大きく逸脱した作品も多々ありました。一般の部の方々は、啄木や盛岡城跡公園、中津川、岩手山以外を詠んだものが多くあり、選歌する自分自身も盛岡の街をもっと歩いてみなければと思わせてくれました。

令和五年十二月選　秋の部

投稿数　百七　首

選者　山本　豊